

授 業 科 目 の 概 要 （ 共 同 学 科 等 ）

（体育学研究科 スポーツ国際開発学共同専攻（修士課程））

科目 区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	講 義 ・ 基 礎	筑波大 学・鹿屋 体育大学	International Development and Peace through Sport I（スポーツ 国際開発論I） スポーツ国際開発学の理論と実践を概観し、国際 的・社会的・文化的な課題解決に向けたスポーツによ る取り組みを学ぶ。講義では特に、開発問題に焦点を あて、地球規模の問題と持続可能で平和な社会を築く ためのスポーツの利用について議論を行う。 （オムニバス方式／全10回） （9 山口拓／1回）スポーツを通した国際開発に関す る理論と実践の概要について （7 北村尚浩／1回）スポーツ産業とその発展につい て （8 萩原悟一／1回）スポーツ組織におけるリーダー シップについて。マネジメントのその展開 （9 山口拓／1回）スポーツを通した国際開発と青少 年の育成に関する議論 （9 山口拓／1回）スポーツを通した国際開発と女性 に関する議論 （9 山口拓／1回）スポーツを通した国際開発と障害 者についての議論 （9 山口拓／1回）スポーツを通した国際開発と平和 についての議論 （9 山口拓／1回）スポーツを通した国際開発と健康 についての議論 （9 山口拓／1回）スポーツを通した国際開発と社会 的弱者についての議論 （9 山口拓／1回）スポーツを通した国際開発におけ る課題についての議論	オムニバス方式 メディア
		鹿屋体育 大学	Olympic Movement Studies（オリン ピックムーブメント 論） オリンピック・ムーブメントの変遷およびオリン ピック・ムーブメントの中身について概観し、今後の オリンピック・ムーブメントについて展望する。 1. オリンピックムーブメントとは？ 2. オリンピックムーブメントの歴史 3. 東京2020とオリンピックムーブメント 4. パラリンピックムーブメント 5. スポーツを通じた国際交流 6. 日本の伝統スポーツ 7. スポーツ指導における子ども保護 8. スポーツ指導における子ども保護 9. オリンピックムーブメントと教育 10. 今後のオリンピックムーブメント	メディア
		筑波大 学・鹿屋 体育大学	Diffusion of Japanese Culture （日本文化伝播論） 前半においては、武道のような伝統的日本文化に関 する知識、その伝播に付随する諸課題について学ぶ。 加えて、伝統的日本文化が諸外国においてどのように 捉えられているのか、また、日本人が自国の伝統文化 をどのように海外に発信してきたのかなどについても 学ぶ。 後半においては、学生自身が伝統的日本文化につい て英語で説明することを通して、日本文化の伝統につ いての理解を一層深めるとともに、それに関する英語 表現の拡充を目指す。	メディア

筑波大学	Sport, Culture and Society (スポーツ・文化・社会)	スポーツ社会学における理論と実践的研究を基礎にして、スポーツを通じた国際開発と平和構築に関する批判的思考をする。 授業計画：(1) 文化的パフォーマンスと記号的意味、(2) ロサンゼルス1984オリンピックにおける変容、(3) 消費社会におけるスポーツイベントの意味、(4) 1964東京オリンピックと都市開発、(5) オリンピック会場建設の歴史的意味、(6) 2020東京オリンピックと都市開発、(7) 1968メキシコオリンピックにおける人種差別撤廃運動、(8) フットボールにおける暴力の諸問題、(9) 日本における女性アスリートの歴史とその意味、(10) スポーツによる開発と平和	メディア
鹿屋体育大学	Sport Promotion (スポーツプロモーション論)	スポーツプロモーションの政策と成果に、国際的動向を学び、そこでの課題について考究する。 第1回 テーマの選択 第2回 スポーツプロモーション政策の現状 第3回 スポーツプロモーションの方法論 第4回 地域スポーツクラブによるプロモーションの世界的動向 第5回 日本の伝統スポーツのグローバリゼーション 第6-7回 各ライフステージ別スポーツプロモーションについて学生が選んだテーマのグループディスカッション 第8回 テスト	集中 メディア
筑波大学	International Sport Policy Studies (国際スポーツ政策研究)	国際スポーツ政策の理論と実践の概要を提供する。英国やヨーロッパの例を用いながら、国際スポーツ政策の現状と課題そして今後の可能性について学ぶ。 授業計画：(1) 比較研究法と概念、(2) 実在的評価、(3) レガシーのメタ評価、(4) ロンドン2012オリンピックレガシーの分析、(5) 東京2020オリンピックレガシー、(6) エリートスポーツ政策評価、(7) 日本におけるエリートスポーツ政策の分析、(8) 国際スポーツリーダーシップにおけるジェンダー平等、(9) WADAにみるアンチ・ドーピング運動政策、(10) アスリート権利とデュアルキャリア	集中 メディア
鹿屋体育大学	Sport Management (スポーツマネジメント論)	スポーツ産業について文献、資料などを用いて世界的市場の動向、経営体の組織、運営などに関する考察を通じて、スポーツ産業のあり方について考究する。 第1回 スポーツマネジメントの導入 (8 萩原悟一) 第2回 大学スポーツマネジメント (8 萩原悟一) 第3回 プロスポーツのマネジメント (8 萩原悟一) 第4回 スポーツ参加に関するマネジメント (8 萩原悟一) 第5回 スポーツマーケティング：スポンサーシップ (14 隅野美砂輝) 第6回 スポーツマーケティング：マーケットリサーチ (14 隅野美砂輝) 第7回 マーケティングプロモーション (14 隅野美砂輝) 第8回 プレゼンテーション (14 隅野美砂輝)	メディア
筑波大学	Sport and Person with Disabilities (PWDs) (スポーツと障がい者)	講義では、学生は障害者のスポーツについて学ぶ。その際に、パラリンピックやパラリンピック以外の世界大会、また障害(身体障害、知的障害、精神障害)の特性など、講義内で議論が可能と思われる事例なども提示していく。 授業計画：(1) Sport for Allと障害者スポーツの概要、(2) パラリンピックに関する理解を深める、(3) 身体障害、知的障害、精神障害とスポーツについて、(4) 障害者スポーツに関する日英比較、(5) パラリンピックムーブメントにおける競技、(6) 各国における障害者スポーツに関する学生によるプレゼンテーションと議論。	メディア

鹿屋体育大学	Health Promotion (ヘルスプロモーション論)	寿命の延伸とともに長期にわたって自立した生活を営むことは重要なことといえます。本コースでは、学生は「活力ある老いと身体活動および運動の役割」について学びます。 第1回:高齢者における自立のために必要な体力について 第2回:高齢者における身体運動時の安全性について 第3回:高齢者の運動療法について 第4回:途上国における健康社会的な課題について 第5回:運動(身体活動量)に対する急性および慢性的適応 第6回:健康と疾病に対する身体活動量の効果 第7回:動身体活動に対する理解とプロモーション 第8回:試験2(レポート)	集中メディア
筑波大学	Advanced Coach Education (上級コーチ教育論)	トレーニング方法、情報戦略、国際的な動向などの面から、コーチ教育について考える。 授業計画: (1) コーチングとフィジカルリテラシー、(2) メンタルトレーニングの意義・事例、(3) スポーツ・コーチングの国際枠組み、(4) アンチ・ドーピングの考え方、(5) トレーニング・コンディショニングの意義・事例・研究動向、(6) 我が国のスポーツシステムの現状と展望・情報戦略、(7) 日本のトップスポーツの競技力向上の取組と課題、(8) Long Term Athlete Development モデル等に対する考え方、(9) メンタルトレーニングに関する最新の研究動向、(10) コーチングにおける TGfU 理論の活用	メディア
筑波大学・鹿屋体育大学	Research Methods (研究方法論)	スポーツを通じた国際開発と平和構築に関わる研究の基礎となる方法論の理論について、事例を踏まえながら学修する。 (オムニバス方式/全10回) (1 清水論/3回) スポーツを通じた国際開発に関する研究の基礎的態勢について (3 山田理恵/1回) 歴史人文学的研究手法について (17 金森サヤ子/3回) 疫学的研究手法について (1 清水論/1回) 文化人類学的観点からの研究手法について (7 北村尚浩/1回) 社会学的観点からの研究手法について (9 山口拓/1回) 社会調査法について	オムニバス方式メディア
筑波大学	Cross cultural studies in physical sport education(比較体育科教育論)	比較体育科教育論では、海外の体育・スポーツの歴史、研究、文化を学ぶと共に、グローバルな視点と研究課題を探究することを目的とする。受講終了時における学習目標を5項目示す。1) 体育の専門用語と背景 2) 実践専門研究と理論を用いたデータ研究の英語表現の違い 3) 量的、質的、行動分析研究の動向と課題 4) 社会現象がもたらす海外の体育事情 5) 国際体育・スポーツ研究ジャーナルの論文執筆に関する要点 で構成されている。講義はすべて英語で行い、読解力、文章作成、研究方法論の内容が組み込まれる。更に、国際体育系ジャーナル執筆に用いられる3種類(American Psychological Association スタイル, Harvardスタイル, Chicago スタイル)の参考文献公式フォーマット演習も取り入れることにより、国際的な体育・スポーツ研究に精通した人材を育成する。	メディア
講義・応用	筑波大学	International Development and Peace through Sport II (スポーツ国際開発論II) このコースでは、「スポーツ国際開発学」の観点に基づく、文化的、社会的、国際的な問題解決の見解をスポーツイベントやに関する批判的思考法について学ぶ。特にIDS研究により集中した内容を取り扱う。 (オムニバス方式/全10回) (9 山口拓/1回) スポーツ国際開発に関する批判的観点からの分析	オムニバス方式メディア

		(9 山口拓／1回) スポーツを通じた開発と健康問題及び公衆衛生 (1 清水論／1回) スポーツを通じた開発とマイノリティ (9 山口拓／1回) ここまでの内容についてのポジティブ・ネガティブ双方の観点からの議論 (10 大石純子／1回) 武道をと通した国際開発 (9 山口拓／1回) QPEとスポーツ国際開発 (5 松元剛／1回) スポーツ国際開発とスポーツイベント (9 山口拓／1回) スポーツを通じた紛争解決 (9 山口拓／2回) スポーツによる外交	
筑波大学	Management and Organization (経営マネジメント論)	スポーツ国際開発学の理論と実践を概観し、国際的・社会的・文化的な課題解決に向けたスポーツによる取り組みを学ぶ。本講義では、特に開発課題に焦点化して、諸課題の特性と持続可能な平和的社会の実現に向けたスポーツの役割に関して討論形式で学ぶ。 授業計画：(1) 地球化とスポーツ、(2) IDS の位置づけ、(3) グループ議論・討論 (1～2回を踏まえ、当該領域の発展経緯を話し合う)、(4) NGOsとIDS、(5) IDS マネジメント、(6) グループ議論・討論 (4～5回を踏まえ、当該領域の運営形態を話し合う)、(7) 古典的マネジメント、(8) 人財育成マネジメント、(9) 偶発性マネジメント、(10) グループ議論・討論 (7～9回を踏まえ、各手法の優位性や課題を話し合う)、(11) 課題レポート・発表	集中メディア
筑波大学	Project Management (プロジェクトマネジメント論)	開発援助実務者をサポートするために国際機関によって開発された実用的基礎技術としてのプロジェクト・マネジメント手法について学習する。主に参加型計画、モニタリング、評価を含むProject Cycle Management (PCM) を採り上げる。 授業計画：(1) 国際協力におけるPCM、(2) プロジェクトの PDCA サイクル、(3) PCM手法の全体像、(4) 理論分析と課題分析、(5) 課題分析演習、(6) 定式化されたPDM理論、(7) PDM の実際の演習、(8) プロジェクト評価の全体像、(9) プロジェクト評価演習、(10) 課題のプレゼンテーション	集中メディア
筑波大学	Research Project Management (研究プロジェクトマネジメント)	研究プロジェクトの計画、内容の構築や詳細の進め方など研究プロジェクトの実行方法について学ぶ。 授業計画：(1) 研究プロジェクトに関する理論と実際の概要、(2) 研究課題の選択とアウトラインの作り方、(3) アウトラインの発表と学生間のディスカッション、(4) アウトラインに対する学術的観点からの指導及びコメント、(5) アブストラクトの作り方、研究動機、課題の設定、研究の意義、目的、研究仮説、研究方法と全体の流れについて、(6) アブストラクトに関する学術的指導と議論、(7) 各自の研究プロジェクトの発表と最終ディスカッション	メディア
筑波大学	Research Project Management 【Practical】 (研究プロジェクトマネジメント (実践))	研究プロジェクトの計画、内容の構築や詳細の進め方などの基礎理論に基づいて研究プロジェクトを実践実行する力を養う。 授業計画：(1) 研究プロジェクトの実施に関する一般的な手法と観点 (研究動機、タイムマネジメント力、指導教員との関係、批判的分析力、俯瞰的観点など)、(2) 修士論文レベルの研究の実際、研究方法、研究の進め方、問題設定の仕方、ホットトピックについて、(3) 研究プロジェクトを進めるにあたってのチェックリストについて、研究計画の準備、倫理的配慮と倫理委員会の許諾について、(4) 修士論文完成に向けての実際的な段階について、(5) 修士論文研究計画の発表と検討	メディア

講義・関連	筑波大学	Principles of Development (開発学原論)	異なる学問領域を持つ学生を考慮し、開発学の基本的概念と理論、国際的潮流について紹介する。また、国内外共通の開発課題や開発政策の理解を深めることを目指す。開発理論、人間開発、貧困と格差、そしてグローバル化と開発に焦点を当てる。急速にグローバル化している世界における、現在の開発課題と機会の理論基盤と実証的分析を比較する。授業のキーワード：開発理論、開発政策、経済成長、貧困と不平等、人間開発、グローバリゼーション	メディア
	筑波大学	Public Policy for Social Development IA (社会開発のための公共政策IA)	この講義の主な目標は、公共政策と政策決定における主要な理論の流れを学生に紹介することである。公共政策の基本的な目標は問題解決であり、それはまた授業の主な目的となる。授業を通して一緒に、この目標がどのように達成されるかを探っていく。我々は、関連する政策主体と制度、政策のニーズと制約、そして結局のところ、なぜいくつかの公共政策が成功し、他が失敗するのかを特定していくことになる。	隔年 メディア
	筑波大学	Public Policy for Social Development IB (社会開発のための公共政策IB)	この講義の主な目標は、公共政策と政策決定における主要な理論の流れの習得を踏まえて、政策と政治分析を組み合わせた公共政策研究へのアプローチを探ることである。公共政策の基本的な目標は問題解決である。授業を通して一緒に、この目標がどのように達成されるかを探っていく。我々は、関連する政策主体と制度、政策のニーズと制約、そして結局のところ、なぜいくつかの公共政策が成功し、他が失敗するのかを特定していくことになる。	隔年 メディア
	筑波大学	Public Policy for Social Development IIA (社会開発のための公共政策IIA)	本講義では、公共政策と政策決定における主要な理論潮流の概説について学んでいく。公共政策の本質的な目標は問題解決であるが、その方途を探るとともに、この目標がどのように達成されるかを分析する。また、公共政策に関連する政策アクターや制度、政策の必要性や制約を考察しつつ、なぜある公共政策が成功し、他の公共政策が失敗するのかも議論する。	隔年 メディア
	筑波大学	Public Policy for Social Development IIB (社会開発のための公共政策IIB)	本講義では、概説された公共政策と政策決定における主要な理論潮流を踏まえて、政策と政治分析を組み合わせた公共政策研究のアプローチを考察する。公共政策の本質的な目標は問題解決であるが、その方途を探るとともに、この目標がどのように達成されるかを分析する。また、公共政策に関連する政策アクターや制度、政策の必要性や制約を考察しつつ、なぜある公共政策が成功し、他の公共政策が失敗するのかも議論する。	隔年 メディア
	筑波大学	Multicultural Coexistence (多文化共生論)	スポーツと平和の理論と実践を概観し、課題解決や多文化共生に向けたスポーツによる取り組みを学ぶ。本講義では、特に平和課題に焦点化して、諸課題の特性と持続可能な平和理解の実現に向けたスポーツの役割に関して討論形式で学ぶ。 授業計画: (1) スポーツと平和に関する理論研究について、(2) 異文化共生研究について、(3) グループディスカッション、(4) 課題研究の成果発表とディスカッション。	集中 メディア
	筑波大学	International Politics IA (国際政治学IA)	この講義の主な目的は、一般社会、特に日本と東南アジアの情報社会に関する問題と課題の概要を学生に提供することである。具体的には、国際的な政治体制について、国際社会情勢について、日本と他国におけるメディア構造の比較などについて、とりあげていく。基本的な授業の進め方は、教員による講義の他、学生が2-3の関連する学術論文を読んでプレゼンや議論をするなどである。	隔年 メディア

	筑波大学	International Politics IB (国際政治学IB)	この講義の主な目的は、一般社会、特に日本と東南アジアの情報社会に関する問題と課題の概要を学生に提供することである。具体的に取り上げる内容としては、日本と他国におけるインターネットの歴史、インターネット上におけるポリティカルコミュニケーションについて、E-government、ビッグデータと社会について、などについてである。授業は、教員による講義の他、学生による関連学術論文のプレゼン、ディスカッションなどによってすすめられる。	隔年 メディア
	筑波大学	International Politics IIA (国際政治学IIA)	この講義では、世界の情報社会に関する問題、一般社会、特に日本と東南アジアの情報社会に関する問題と課題の概要を学生に提供していく。具体的なトピックとしては、国際的な政治体制に関する内容、国際社会情勢に関する内容、日本と他国におけるメディア構造の比較について、などである。基本的な授業の進め方は、教員による講義の他、学生が2-3の関連する学術論文を読んでプレゼンや議論をするなどである。	隔年 メディア
	筑波大学	International Politics IIB (国際政治学IIB)	この講義では、一般社会、特に日本と東南アジアの情報社会に関する問題と課題の概要を学生に提供することである。具体的には、日本と他国におけるインターネットの歴史、インターネット上におけるポリティカルコミュニケーションについて、E-government、ビッグデータと社会について、などについて取り上げる。授業は、教員による講義の他、学生によるプレゼン、相互のディスカッションなどによる。	隔年 メディア
	筑波大学	Economics of Development in Asia I (アジアにおける開発経済学I)	本講義は、アジア経済特に東南アジア経済の発展構造の概要を学習することを目的とする。アジアは多数の低所得国やいくつかの発達した経済という多様性を含んでおり、経済分野において、開発課題と地域統合という2つ課題が顕著である。そこで、開発経済学（アジア）は、アジア地域における経済開発実績と課題に焦点を当てる。 授業計画：(1)多様性と共通性、(2)発展と経済の多様性、(3)貧困と不平等、(4)農業と地域開発、(5)人口変動	隔年 メディア
	筑波大学	Economics of Development in Asia II (アジアにおける開発経済学II)	本講義は、アジア経済特に東南アジア経済の発展構造の具体的な内容に触れながら学習することを目的とする。アジアは多数の低所得国やいくつかの発達した経済という多様性を含んでおり、経済分野において、開発課題と地域統合という2つ課題が顕著である。そこで、開発経済学（アジア）は、アジア地域における経済開発実績と課題に焦点を当てる。 授業計画：(1)教育、(2)移民、(3)国際貿易、(4)海外直接投資、(5)グローバリゼーションと貧困改善	隔年 メディア
演習・学内	鹿屋体育大学・筑波大学	IDS Seminar: International Development and Peace through Sport (スポーツ国際開発学課題演習)	学生は、論文（特定課題レポート）を書くために、下記5つの課題領域と指導教員を選出し、社会課題を解決するIDSの手法、戦略、評価法等に関する調査・研究を行う。 課題領域:スポーツを通じた開発と平和 (Development and Peace through Sport)、スポーツを通じた教育・青少年育成 (Education and Youth Development through Sport)、スポーツとジェンダー・人種・民族 (Sport and Gender, Race, Ethnicity)、健康と環境 (Health and Environment)、アダプテッド・高齢者のスポーツ (Aged and Adapted Sport)	メディア

	鹿屋体育大学・筑波大学	Research Project (課題研究)	研究テーマを設定し、実践的課題に対して、先行研究を踏まえて、修士論文または課題レポートを作成するにあたって、それぞれの指導教官の下で個別指導を受ける。 (1 清水諭) スポーツ社会学、身体論、スポーツ文化に関する研究指導を行う。 (2 佐藤貴弘) 比較体育科教育に関する研究指導を行う。 (3 山田理恵) 歴史的、文化人類学的アプローチから、スポーツを通じた地域開発に関する研究指導を行う。 (4 森克己) スポーツと法に関する研究指導を行う。 (5 松元剛) コーチング、フラッグフットボール、戦術的知識、大学スポーツに関する研究指導を行う。 (10 大石純子) 武道論、武道史、武道の海外普及、武道と女性に関する研究指導を行う。 (7 北村尚浩) 体育・スポーツ社会学、青少年に関する研究指導を行う。 (9 山口拓) 開発人類学と青少年スポーツ、カンボジアにおける体育科教育に関する研究指導補助を行う。 (6 イスラム・モハモド・ムニル) 高齢者の健康づくり及び途上国対先進国の中高齢者の機能的体力の評価に関する研究に関する研究指導を行う。 (8 萩原悟一) スポーツマネジメント、スポーツマーケティングに関する研究指導を行う。	メディア
演習・学外	筑波大学	JSC Seminar (JSCセミナー)	日本スポーツ振興センターが開催する研修およびセミナーに参加し、レポート作成やその他の業務を通じて学習する。事前準備として、学生は自身の学術的興味や目的に従って参加するセミナーを選択する。セミナーは1日から数日間のものまで多様であるので、各自の都合に合わせて途中でリタイアすることが無いように準備する。セミナーの具体例として、国際スポーツイベントのレガシーに関するもの、ソーシャルメディアの利用に関するもの、スポーツライフに関するものなどがある。事後には、所定の手順に従って報告書をまとめて指導をうける。	集中
	筑波大学	JSC Project (JSCプロジェクト)	日本スポーツ振興センターで展開されている事業プロジェクトに参加し、事業運営、マネジメントの実践について学ぶ。事前準備として、提示されたプロジェクトリストの中から、学生自身の興味関心に従ってプロジェクトを選択し、所定の申請手続きと諸指導を受ける。実習期間中は、プロジェクトの推進を実践的に経験学習する。プロジェクトの例としては、国際的なイベント入札に関するもの、政策情報の収集と分析に関するもの、国内におけるスポーツタレントの発掘と開発、選手育成、コーチング、スポーツインテグリティプロジェクトなどがある。事後指導としては、経験学習を振りかえってレポートにまとめる。	集中
	筑波大学	Seminar in Universities Abroad (国外大学セミナー)	自分の研究テーマに沿って、興味関心のある分野について、海外の大学における教員及び学生とコミュニケーションをとり、授業に積極的に参加して、研究能力を深める。事前に、興味関心のある分野の明確化、その分野を得意とする大学の選定、先方との連絡連携について、指導教員と十分な連携を取りながら準備する。海外での安全留意や先方の受け入れ先を明確にしたうえで、渡航し、所定のセミナーや授業などに参加する。事後には、報告書をまとめて提出すると同時に、先方への令状や今後の人脈の確保に努める。	集中

	筑波大学	International Conference and Seminar (国際カンファレンス・セミナー)	国際カンファレンスや国際研究セミナーで発表を行うなどして議論を深め、また自己の研究テーマに沿って資料収集を行い、研究能力を高める。事前に、参加するカンファレンスでの発表内容について、指導教員と十分な連携を取りながら研究を深め、発表内容を煮詰める。発表するための所定の申請手続きも行う。カンファレンスに参加したら、しっかり発表するとともに、参加者と議論を深め、研究に対する視野を広げ、人脈を広げる。事後には、指摘された課題や今後の研究課題について整理するとともに、報告書をまとめて提出する。	集中
	筑波大学	NGO Activities (NGO等プロジェクト)	NPOやNGOの活動の実践に触れ、課題発見や課題解決に向けた計画・活動・評価等に関する取り組みを学ぶ。本実習では、特に経験知の獲得を目標に、各組織が取り組む諸課題の特性と課題解決に向けた方略を実体験を通じて学ぶ。事前準備として、世界各地で多様な活動を実施しているNPOやNGOに関する情報を収集し、参加する組織の焦点を絞る。指導教員と十分な連携を取りながら、組織と連絡を取り、活動参加への承諾を得る。実際の参加にあたっては、安全への配慮、健康面での留意事項に注意して渡航し、活動に参加する。現地では、その地の風習や慣習を尊重しつつ、安全に配慮して活動実態を肌を通して学ぶ。事後には、学んだ経験を報告書にまとめるとともに、活動における課題などについても整理して報告する。	集中
実践・母国	筑波大学	On the Job Practice (Domestic)	日本スポーツ振興センターなどのスポーツおよび国際開発に関連する組織において4週間(1日7時間×4週間)の研修を行う。事前に、指導教員、受け入れ先組織と十分な連絡相談を重ねたのち、受け入れの承諾を与えること。許可が下りたら詳細な実習計画書を作成し指導教員の署名捺印を得たのち提出する。実習生調書、保険への加入などの手続きも進めること。実習中は無報酬を原則とし、受け入れ組織の規則や慣習に従って、真摯に実習に努める必要がある。実習中は実習記録を作成する。実習後は、実習記録と実習報告書を所定の手続きを踏まえて提出するとともに、実習先指導者による評価を受け、評価表を大学に提出すること。	集中
実践・海外	鹿屋体育大学・筑波大学	On the Job Practice (International)	Local- International NGOの実践に触れ、課題発見や課題解決に向けた計画・活動・評価等に関する取り組みを学ぶ。本実習では、特に経験知の獲得を目標に、各組織が取り組む諸課題の特性と課題解決に向けた方略を実体験を通じて学ぶ。現地-/国際NGO、機関等やJICA等のインターン/ボランティア・スタッフとして、4カ月(16週間)程度の活動に従事する中で課題の本質を学ぶ。 「現地-/国際NGO、機関等の実際を知ることで、市民社会組織の役割と限界を学び、実際的な取り組みから理論と実際の異なりを把握できるようになる。」	集中

(注)

- 1 共同学科等を設置する場合は、別記様式第2号(その3の1)に代えて、この書類を作成すること。
- 2 共同学科等を設置する場合は、この書類に加え、別記様式第2号(その3の1)の例により、構成大学別のものを作成すること。
- 3 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 4 私立の大学若しくは高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授 業 科 目 の 概 要			
（体育学研究科 スポーツ国際開発学共同専攻（修士課程））			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	講 義 ・ 基 礎	International Development and Peace through Sport I （スポーツ国際開発論I）	オムニバス方式 メディア
		スポーツ国際開発学の理論と実践を概観し、国際的・社会的・文化的な課題解決に向けたスポーツによる取り組みを学ぶ。講義では特に、開発問題に焦点をあて、地球規模の問題と持続可能で平和な社会を築くためのスポーツの利用について議論を行う。 （オムニバス方式／全10回） (9 山口拓／1回) スポーツを通じた国際開発に関する理論と実践の概要について (7 北村尚浩／1回) スポーツ産業とその発展について (8 萩原悟一／1回) スポーツ組織におけるリーダーシップについて。マネジメントのその展開 (9 山口拓／1回) スポーツを通じた国際開発と青少年の育成に関する議論 (9 山口拓／1回) スポーツを通じた国際開発と女性に関する議論 (9 山口拓／1回) スポーツを通じた国際開発と障害者についての議論 (9 山口拓／1回) スポーツを通じた国際開発と平和についての議論 (9 山口拓／1回) スポーツを通じた国際開発と健康についての議論 (9 山口拓／1回) スポーツを通じた国際開発と社会的弱者についての議論 (9 山口拓／1回) スポーツを通じた国際開発における課題についての議論	
		Olympic Movement Studies （オリンピックムーブメント論）	メディア
		オリンピック・ムーブメントの変遷およびオリンピック・ムーブメントの中身について概観し、今後のオリンピック・ムーブメントについて展望する。 1. オリンピックムーブメントとは？ 2. オリンピックムーブメントの歴史 3. 東京2020とオリンピックムーブメント 4. パラリンピックムーブメント 5. スポーツを通じた国際交流 6. 日本の伝統スポーツ 7. スポーツ指導における子ども保護 8. スポーツ指導における子ども保護 9. オリンピックムーブメントと教育 10. 今後のオリンピックムーブメント	
		Diffusion of Japanese Culture（日本文化伝播論）	メディア
		前半においては、武道のような伝統的日本文化に関する知識、その伝播に付随する諸課題について学ぶ。加えて、伝統的日本文化が諸外国においてどのように捉えられているのか、また、日本人が自国の伝統文化をどのように海外に発信してきたのかなどについても学ぶ。 後半においては、学生自身が伝統的日本文化について英語で説明することを通して、日本文化の伝統についての理解を一層深めるとともに、それに關する英語表現の拡充を目指す。	
		Sport Promotion（スポーツプロモーション論）	集中 メディア
		スポーツプロモーションの政策と成果に、国際的動向を学び、そこでの課題について考究する。 第1回 テーマの選択 第2回 スポーツプロモーション政策の現状 第3回 スポーツプロモーションの方法論 第4回 地域スポーツクラブによるプロモーションの世界的動向 第5回 日本の伝統スポーツのグローバリゼーション 第6-7回 各ライフステージ別スポーツプロモーションについて学生が選んだテーマのグループディスカッション 第8回 テスト	
		Sport Management（スポーツマネジメント論）	メディア
		スポーツ産業について文献、資料などを用いて世界的市場の動向、経営体の組織、運営などに関する考察を通じて、スポーツ産業のあり方について考究する。 第1回 スポーツマネジメントの導入（8 萩原悟一） 第2回 大学スポーツマネジメント（8 萩原悟一） 第3回 プロスポーツのマネジメント（8 萩原悟一） 第4回 スポーツ参加に関するマネジメント（8 萩原悟一） 第5回 スポーツマーケティング：スポンサーシップ（14 隅野美砂輝） 第6回 スポーツマーケティング：マーケットリサーチ（14 隅野美砂輝） 第7回 マーケティングプロモーション（14 隅野美砂輝） 第8回 プレゼンテーション（14 隅野美砂輝）	

	Health Promotion (ヘルスプロモーション論)	寿命の延伸とともに長期にわたって自立した生活を営むことは重要なことといえます。本コースでは、学生は「活力ある老いと身体活動および運動の役割」について学びます。 第1回:高齢者における自立のために必要な体力について 第2回:高齢者における身体運動時の安全性について 第3回:高齢者の運動療法について 第4回:途上国における健康社会的な課題について 第5回:運動(身体活動量)に対する急性および慢性的適応 第6回:健康と疾病に対する身体活動量の効果 第7回:動身体活動に対する理解とプロモーション 第8回:試験2(レポート)	集中メディア
	Research Methods (研究方法論)	スポーツを通じた国際開発と平和構築に関わる研究の基礎となる方法論の理論について、事例を踏まえながら学修する。 (オムニバス方式/全10回) (1 清水論/3回) スポーツを通じた国際開発に関する研究の基礎的態について。 (3 山田理恵/1回) 歴史人文的研究手法について。 (17 金森サヤ子/3回) 疫学的研究手法について。 (1 清水論/1回) 文化人類学的観点からの研究手法について。 (7 北村尚浩/1回) 社会学的観点からの研究手法について。 (9 山口拓/1回) 社会調査法について。	オムニバス方式メディア
演習・学内	IDS Seminar: International Development and Peace through Sport (スポーツ国際開発学課題演習)	学生は、論文(特定課題レポート)を書くために、下記5つの課題領域と指導教員を選出し、社会課題を解決するIDSの手法、戦略、評価法等に関する調査・研究を行う。 課題領域:スポーツを通じた開発と平和 (Development and Peace thorough Sport)、スポーツを通じた教育・青少年育成 (Education and Youth Development through Sport)、スポーツとジェンダー・人種・民族 (Sport and Gender, Race, Ethnicity)、健康と環境 (Health and Environment)、アダプテッド・高齢者のスポーツ (Aged and Adapted Sport)	メディア
	Research Project (課題研究)	研究テーマを設定し、実践的課題に対して、先行研究を踏まえて、修士論文または課題レポートを作成するにあたって、それぞれの指導教官の下で個別指導を受ける。 (1 清水論) スポーツ社会学、身体論、スポーツ文化に関する研究指導を行う。 (2 佐藤貴弘) 比較体育科教育に関する研究指導を行う。 (3 山田理恵) 歴史的、文化人類学的アプローチから、スポーツを通じた地域開発に関する研究指導を行う。 (4 森克己) スポーツと法に関する研究指導を行う。 (5 松元剛) コーチング、フラグフットボール、戦術的知識、大学スポーツに関する研究指導を行う。 (10 大石純子) 武道論、武道史、武道の海外普及、武道と女性に関する研究指導を行う。 (7 北村尚浩) 体育・スポーツ社会学、青少年に関する研究指導を行う。 (9 山口拓) 開発人類学と青少年スポーツ、カンボジアにおける体育科教育に関する研究指導を行う。 (6 イスラム・モハメド・ムニル) 高齢者の健康づくり及び途上国対先進国の中高齢者の機能的体力の評価に関する研究に関する研究指導を行う。 (8 萩原悟一) スポーツマネジメント、スポーツマーケティングに関する研究指導を行う。	メディア
実践・海外	On the Job Practice (International)	Local- International NGOの実践に触れ、課題発見や課題解決に向けた計画・活動・評価等に関する取り組みを学ぶ。本実習では、特に経験知の獲得を目標に、各組織が取り組む諸課題の特性と課題解決に向けた方略を実体験を通じて学ぶ。現地-/国際NGO、機関等やJICA等のインターン/ボランティア・スタッフとして、4カ月(16週間)程度の活動に従事する中で課題の本質を学ぶ。 「現地-/国際NGO、機関等の実際を知ることで、市民社会組織の役割と限界を学び、実際の取り組みから理論と実際の異なりを把握できるようになる。	集中

(注)

- 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

国立大学法人鹿屋体育大学 組織の移行表

2019年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	2020年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
鹿屋体育大学				鹿屋体育大学				
体育学部		3年次編入		体育学部				
スポーツ総合課程	120		480	スポーツ総合課程	120	3年次編入	480	
武道課程	50	20	200	武道課程	50	20	200	
			編入40				編入40	
計	170	20	720	計	170	20	720	
大学院体育学研究科				大学院体育学研究科				
体育学専攻 (M)	15	－	30	体育学専攻 (M)	15	－	30	
体育学専攻 (D)	6	－	18	体育学専攻 (D)	6	－	18	令和2年4月募集停止
スポーツ国際開発学共同専攻 (M) ※1	3	－	6					
	(8)	－	(16)	スポーツ国際開発学共同専攻 (M) ※1	3	－	6	専攻の設置
					(8)	－	(16)	令和2年4月募集停止
大学体育スポーツ高度化共同専攻 (D) ※1	2	－	6					
	(5)	－	(15)	大学体育スポーツ高度化共同専攻 (D) ※1	2	－	6	専攻の設置
					(5)	－	(15)	
計	26	－	60	計	26	－	60	

※1 大学院設置基準第31条第1項に基づく共同教育課程の専攻であって、その定員は本学に係るものである。なお、（ ）内は当該共同教育課程全体の定員である。